

事務局の瀬下補佐が資料7-2-1(事前評価実施要領)を10分弱で説明した後に質問は無く、引き続き JAXA の本間執行役と大沢プロマネが資料7-2-2(災害監視 SAR 衛星)を40分弱で説明を行った。その後、30分弱の質疑応答があった。(災害監視衛星構想は、ALOSの成果を受けて各関係省庁の防災業務に供する地球観測データを提供するものである。3種のセンサを搭載したALOSと同じ観測範囲で高分解能を目指すため、データ量が格段に増大することから、可視光観測衛星と SAR 衛星とを分けて居り、此处では SAR 衛星の開発研究段階への移行の可否が審議される。)(災害監視衛星の他、地球温暖化・炭素循環変化、気候変動・水循環の地球観測衛星構想が有り、住委員を中心に其れ等の関係が極めて分り難い(夫々が最適解を追求したら、全体としての最適解にはならない)との指摘、観測間隔を密にして欲しいとの指摘、などがあった。確かに解り難い上に、JAXAの説明も要領を得ないが、太陽同期軌道を取ると言う制約条件と、技術開発衛星であると言う定義をしたい事が、此の分り難さを生んでいる様である。)

林田:大きな枠組みについて質問したいんですけども、あのALOSの評判が非常に宜しい事はかねがね存じて居りまして、此れは先ず後継のプロジェクトと言う様な位置付けと考えて宜しいんでしょうか。

JAXA 本間:あの、メインのミッションは災害って言う事で、今ご報告して居りますが、結果としてはALOSの継続、あ、寧ろ正確に言いますと上位互換性を持つ様な衛星計画に、今し

て居ります。

林田:其の時にですネ、あの、先程から災害のシステムと云う言葉を再三使って居られてですネ、複数の衛星によるシステムを構築するんであると、特に地上の設備につきましてはそう云う事を意識してらっしゃると思います。一方でですネ、災害監視分野以外にも此れはデータ活用出来ると云う事になります、其れは裏を返せば、他の地球観測衛星、つまり環境であるとか、水管理であるとか、そう云う事をメインにしたものであっても、逆に災害に使えるもの一杯有る<sup>1</sup>訳です。先程仰っておられました光学センサの方は特にそうで、此れはかなり汎用性がある、実際に例えば森林火災であるとか、そう云う事だって、資源だって何だって使われてるし、逆にその此方のデータは例えば氷河が減るとか何だかそう云う事にも使って、温暖化にも貢献してる訳ですね。で、そう云う事考えると、災害システムと云う事言うのであれば、もう一步踏み込んで別の衛星も含めて、色々な事に使うものを含めて、地上システムを整備して行くって云うのが、大きな、もう一回り大きな枠組みとして捉えて、其の中のコアであると言う様な発想には立てないものなんでしょうか。

---

<sup>1</sup> 此の辺りを変に細かく論理的に議論すると、「技術試験衛星」とか「技術実証衛星」とか、無理に定義している事の矛盾に辿り着いてしまう。夫々の衛星の開発目的を尖鋭に絞り込むことで技術開発要素を明確に持たせ、業者を選定して開発が立上ってしまえば出来る限り広範な利用を目指すのである。

JAXA 本間: 全体の構成としては今ご指摘のあった様のを念頭に置いて居ります。それで、特にデータ統合と云うのが今キーワードになってるかと思いますが、其の概念の中で既に例えば GCOM だとか、先行している色々な観測衛星の地上のネットワークが有りますし、それで災害監視衛星の地上のネットワークを作る時にはですネ、今仰ったような、最終的にエンドユーザの方が、どれとどれとどれのデータを組み合わせて使うのかって云うのは、凡そ掴んでいますが、システム設計を詰めて行く中ですネ、其処を十分留意して全体として、全体としてと云うのは使える様なリソースを全部エンドユーザに届くような、そう云うのを目指した地上システムを作っていく、そう云う計画にしています。

林田: 一寸あの、夢みたいな話かもしれませんが、静止衛星にと云う話は無いんでしょうか。

JAXA 本間: 当然気象衛星は災害の監視には非常に重要なものだと言う認識して居りますので、其れはもう既に現在のネットワークの中で配布されておりますし、将来的に気象庁さんも気象衛星をどんどん高性能化されますから、其の流れで矢張り今言いました様なトータルのシステムの中に、重要な位置を占めて行くのだと云う風に考えて居ります。

林田: 光学衛星と云うものが例えば静止に相乗りすると云う様な発想は無いでしょうか。

JAXA 本間: あの、今の「ひまわり」が既に光学衛星と言えれば光学衛星になって居りますので、其のデータを如何に有効に使えるかって云う事だと。

青江部会長: そうではなくて、多分静止で高分解能、此れと同じ位の高分解能なものと云うのが、先行き有るんじゃないんですか、其の辺はどうされるんですか、と云う事ですよ。

林田: AVNIR<sup>2</sup>みたいなのが静止衛星にならないかと。

JAXA 本間: ああ、失礼。研究はして居ります<sup>3</sup>。

青江部会長: 他、如何で御座いましょう。

住: 僕もその基本的にね、此の災害監視衛星が出て来た背景が、ソノガ(?) 大津波とか、非常にまあそう云う時代背景をしょってるんだらうとは思いますが、ベースライン的に考えるとね、やっぱりエアロストウ(?) と云う根拠ってのがまあ、僕は良いなあとまあ、個人的には思って居ります。で、その中に災害の事を入れてくってのが僕は。それからやっぱり時間スケールが違いますので、中で見ますとですネ、多分此れで全部の災害を監視出来る様なイメージでしゃべるの、其れは間違ってると思うんですね。だから、例えばグローバルな災害監視だったら其れは意味が有るんですね。日本のネ、例えば地震だったら航空機飛ばしや良い訳ですよ。そのまあ若し SAR が欲しければ日本の宮城沖地震であればネ、明らかに飛行機の方が使い勝手が有るし、一寸細かいアレだけど、其の辺の区別をネ、僕はちゃんとさせないと、例えば河川の例でも、此のシキデト(?) 陸地の河川の例が出てますけど、あんなの衛星で撮っても人一杯住んで、

<sup>2</sup> ALOS「だいち」に AVNIR-2 近赤外放射計が搭載されている。

<sup>3</sup> 此れ以上詳しい説明は出来ないのだけれど、此れで林田委員に伝わったのだろうか。

目視出来ないと一杯有る訳ですネ。そんな処まで衛星でやるって云う様な事は、僕は違う様な気がするので、其の辺の区別をされた方が僕は先ず良いなと思うのと、それから基本的にまああの、ベースラインとしてALOS- のアップグレードをされたときに、分けられましたよね。今光学と。其の理由は何も説明されてなかったんですが、其の理由とですネ、それから林田さんが言われたシステムと云う事で言われるよう、タマもね、タマも将来的にトントントンと何個か上げる様なプランニングになってんのかね、例えば、殆どその例えば他の国の衛星を当てにしてそう云うシステム作ると云う、其の辺はどうなんでしょう。

JAXA 滝口:最初の航空機のシステムで良いんじゃないかって云うのですが、矢張り航空機による観測幅は1キロから2キロと云ったエリアで御座いまして、矢張り先程の岩手宮城内陸地震のような広範囲なものそれから、阪神淡路もそうですネ。かなり広範囲で20キロから30キロ幅に互って被害が及ぶ様な所。そう云ったものを矢張り広域観測を一気に出来る機能ってのは求められると。但しまあ、「だいち」一機ではですネ、矢張り課題となってます観測頻度、矢張り衛星ってのは軌道に支配されてますから、好きな時に好きな所に行ける訳じゃ無いと云う処を克服しなければいけないって云うのはありまして、其処は先程青江部会長からもご説明御座いました様に、複数機体制を目指すと云う中の最初の一個と考えて居ります。

住:いや、でも、其れは僕は違うベスクワド(?)僕は防災関係や

った事無いから知りませんが、恐らく其れは宇宙側の、自分達の都合だと僕は思いますよ。

JAXA 滝口:いや、あの、此れは防災機関等にもですネ、確認をして居りまして、阪神淡路規模の範囲を見れる様な機能が必要だと云うのと、中央防災会議の委員等を務められてる方々にも聞きましたけど、今問題となっておりますのは首都圏直下、それから東海地震、東南海、南海地震ですか、大規模災害が必ず起こると云う備えで今中央防災会議で議論されておりまして、そう云った処に広域観測は必要であると。それから先日も中央防災会議の水害の部会に出まして、利根川の決壊、此れが首都圏が水浸しになってくのに2日位掛ってジワジワジワジワ来る中で、矢張り地上のモニターだけでは数足りないと言う様な話も御座いまして、大規模災害には矢張り広域観測が必要と。但し、此れだけで全てモニタリング出来る訳じゃなくて、矢張り飛行機ヘリコプタ等と情報連携、此れが重要だと思ってます。

住:いや、でもね、ユーザの場合有れば便利ってのは皆有るから、要するに絶対そんなの要らないとは言わないですよ。と僕は思います。取敢えずだから、エバルエス(?)だけで、此れがネ、必要じゃ無いと言ってるんじゃないで、ただ、そう云う事を以てジャスティファイと言うよりは、僕はALOS スファ(?)普通の人が思ってる様にネ、その災害監視と云う機能も含むんだけども、もっと広い意味でのALOS- のスパンスノ(?)が有るのは誰も反対しないと思うんですよ。だから、そう云う風に。いや、なんか、だけど、災害災害って云い過



ぎてる部分が、其の実態がネ、それ程災害に特化したようなシステムかなあと云う気が、素朴に言えばしますので<sup>4</sup>、其の辺の事をムニャムニャ。

青江部会長:あの、仰ってる事は多分に分かるんですけどネ、先ず此の第 1 義的目的は国際じゃなくて日本の災害監視、これだと思うんですネ。でその上に立って航空機ヘリ等との間の相互補完と云うもので、必須であると云う事をやっぱりキチンと言って頂かないと、今住先生言われた様な事に相成るんだらうと思うんですネ。其処をもう少し補足的なですね、よりクリアな説明をですね、して頂く必要があるかも知れませんね。勿論、仰られる、そのまあ、「だいち」の後継と云うのは、これは多分多くの方がサポートする処だらうと思えますけれども、其の前にコクドウ(?)が有った上で、此れも有るよと云う話だらうと云う風には思うんですけれどもね。其の辺をもう少し整理をして頂いた方が良いかも知れませんですネ。他、如何でしょうか。

JAXA 大沢:あの、もう一つの方の「何故二つに分けたのか」と云う事で御座いますが、一つは観測頻度が矢張り此の災害の場合稼がないといけないと云う事で、二つに、光学と SAR を別々の衛星に乗せると云う考え方をして居ります。それ

<sup>4</sup> 何年も宇宙開発委員会に出ているのに、初めて参加された委員の様な発言をされており、失望する。災害監視の為に技術実証衛星を作るミッションであり、2 機目以降の実用衛星は、1 機目と同じ企業が競争入札に於いても有利に受注出来る様に考えているのである。

からもう一つの技術的なポイントとしましては、「だいち」の場合はデータ伝送レートが 240 Mbps とか 120 Mbps で御座いますが、此の災害監視衛星の場合に分解能は更に「だいち」より高くなっていて、尚且つ観測幅はそこそこ維持していると云う事もあって、1 Gbps とか其れ以上とか、そう云った様な時にそれが二つまた載って、SAR の方も同じ様な状況になって居りますので、データを送ると云う観点からも二つに分けた方がやり易いと云う、此の 2 点でまあ、二つの衛星に、光学と SAR を分けたと云う状況です。

青江部会長:それから住先生、もう一点一寸補足致しますとですね、先程一寸触れました長期計画で議論した、其の過程に於いて、こう云った事も長期計画の中で議論したんですネ、其の時の議論の過程の中に於きまして 4 つと云う構想は一応あったんですよね。4 つあれば先程の 3 時間、発災後 3 時間と云うものが相当なパーセンテージでカバー出来るネ、そうすれば使いでは有るネと。其の広域、広いアレで其の位の時間帯であれば使いでは有りますネと云う議論が有ったと云う事だけ、一寸念の為に。はい。

鈴木:其れと関連した話なんですけど、12 頁の方にですね、3 時間とか 6 時間とか云う、此れは二つの衛星でって云う事ですか、左の方の図は、そうすると SAR 衛星だけだともっとズツと確率と言いますか、時間が増える訳ですネ。

JAXA 大沢:はい。大体 SAR 衛星 1 機ですとほぼ一日 2 回、まあ昼と夜と 1 回ずつ見える様な形で、少し高緯度、高緯度と言いますか、北海道とか東北辺りだと場合によっては 4 回見

える、最大だとそう云う様な形になります。

鈴木: 此れあの衛星は、ロールをして別のところも見えると云う事ですか。或る範囲に在って遠くを見ようと思えば見える訳ですネ。光学衛星の様に。

JAXA 大沢: はい。

鈴木: まあ、そうしますと、3 時間てのは結構重要な訳ですよ、そのリクワイアメントしましては。そうしますと先程お話の出した様なもう一寸小型の衛星沢山上げると云う、そう云う構想では有り得ない? と云うのは、外国で確か同じ様な小型の SAR 衛星を5つ打上げるとか云う話が進んでるんじゃないかと思えますけども、あの、小型だと精度が悪いとか色々あるのかも知れませんが、其の 3 時間と言いますか、其の辺りを非常にはっきりして置かないと、まあ、天気が悪い時に SAR しか実際に見れない訳です、光学衛星が無い為に、そうしますと一日経ってもデータが出て来なかったなんて話になると変な話になるかも知れませんが、其処はやっぱりスタート時点で非常にはっきりしといた方が良くないかと思えます。

JAXA 大沢: はい、あのー、まあ、海外の SAR 衛星で御座いますが、42 頁の処にですネ、日本の衛星、まあ災害監視の SAR 衛星、それからドイツの TerraSAR-X とそれから Radarsat って云うまあこの他に今ご指摘のあります、例えばイタリアの CosmoSkynet 此れが 4 機の体制になって居ります。そう云った中で矢張り観測幅が、まあ此方所謂小型ではないんですが、小型衛星も含めまして、観測幅が 50 キロ

まで達していない様なものが、まあ、基本モードで言うと殆どで御座います。で、更に小型衛星になれば、また更に観測幅も取りずらくなると云うのが一般的なもので御座います。それから、海外の SAR 衛星はドングック・オービットと呼ばれる何時も日の当る所 6 時 18 時まあ午前 6 時と午後 6 時にしか飛んで来ない軌道<sup>5</sup>に、CosmoSkynet と云うイタリアの衛星 4 基体制のもの、全部同じ軌道に飛ばしておりますので、毎回 6 時とか午後 6 時とかでしか飛んで来ませんので、数を例えばそう云う形で増やしても、回数は多くなるんですけども、時間的にはもう中、ポンと抜けてしまう様な、そう云った計画が殆どで御座います。

青江部会長: いやあの、多分ネ。誤解だとアレなんですけど、ちっちゃな奴でね、こんな所謂中型規模の奴で行くからお金も掛かるしアレなんで、ちっちゃな奴でばら撒きゃ良いじゃないかと、其れじゃどうして駄目なんだと。言ってみればそんな事と違うんですか。

鈴木: そうです。

青江部会長: それじゃどうして駄目なんですかと?

JAXA 本間: ああ、あの、私の方から。勿論トレードオフの中にそう

---

<sup>5</sup> 殆どの観測衛星が太陽同期軌道を取っていると言っているのは解るが、周期は 90 分程度であるから一日当たり 16 回地球を周回していて、自国の上以外で沢山観測すると云う事しか説明してない様に思える。衛星の周期を地球の自転と同期させるのが困難で、自国の上空を通過する回数を増やす為だけに複数機体制を取っていると云う事なのだろうか。

云う検討もして居りますが、合成開口レーダって云うのは自分でかなり強い電波を出して絵をとる、まあ、そう云う意味で言って、現在、いま 42 頁で海外の例で例えば TerraSAR-X と云うのも有りますが、此れも 1 トン位の重さの衛星でありまして、現在の技術で言うと所謂小型衛星って云うと 2 ~ 300 キログラムとか其の辺良く言われますが、其れですと中々ユーザが期待する性能は出せない。まあ、其れに対して今我々が持っている技術を磨いてですネ、更に...今、外国の合成開口レーダの衛星は今大沢が説明したように朝の 6 時と夕方の 6 時を飛ばしますが、其れは当然ユーザは使うと思ってます。ですから我々が今考えて居ります災害監視衛星と云うのは正午とそれから真夜中の 12 時を通る軌道を考えて居りまして、そうするとまた太陽電池パドルがどうこうとか、色んな熱が入ってくる、そう云う事で現在の世界的な最先端の技術を集めても、矢張り此の位の性能の衛星と云うのは 2 トン弱の我々の、まあ、設計している重さになるのではないかと思います。もう少し効率の良い素子とか、或いは性能の良い受信機等が、研究がドンドン進みますと、次の世代では今仰ったようにより小型の SAR 衛星は実現出来るかと思いますが、現在のベストエフォートとしては此の重さになります。

青江部会長: 要はユーザとの間の議論が決まったと。それで、ユーザ要求をですネ、満たそうとすると此の所謂大きさと云うのは最低限必要ですと云うのが回答らしいんですけども、宜しいですか？

住: あと、此れに防災利用の実証が非常に進んでると書いてるんですけど、**其の具体的な話があんまり見えて来てない<sup>6</sup>**ので、まあ、其の辺の処はチャンと、それからやっぱり資料としてもやって欲しいなと僕はそう云う気がしてます。で、まあ僕の穿った見方かも知れませんが、何か有るとバーっとカンワダ(?) 中央も内閣、さっき、内閣府にあるマツタ(?) 会議が有りますよね。ああ云うのも、何か事件が有るとワーっと変わるけれど、バーっとこう、ミケイタンケン(?) に、それで、チイガタ(?) こう云うのを繰り返す様な気がしてるので、其の辺のやっぱり具体的、どう云う風に利用が進んで、関係してるのは何処だって云う様な事はやっぱり資料的にチャンとされて、こうなってますとされた方が... お話だけになっちゃうから、調べても其れが... 例えば、地震が、今度の宮城沖の地震、宮城の地震の事でも、あんまり ALOS を使った話がテレビに流れて来てないって云うアリスタ(?) 悪いんだけど、見えて来ない様な気がしてるんですが、其の

<sup>6</sup> 「地球観測衛星で画像は取れるが、其れが何を意味しているのかが判らず、研究結果の発表を聞いていてもどこまで信じられるのか疑わしい発表が多い。」と云う一般論は解らないでもない。しかし、此の 2 日前の定例会議で ALOS の成果が発表されたのを聞いていると、ゆっくりではあるが地球観測のデータを読み取る技術が向上している様に感じる。小職が地球観測のワークショップに出席する努力を続けていたら、もう少し良く情報入手出来ていたと思われる。「見えて来ない」のは現象であって、マスコミが興味を示さないだけの事ではないか。



辺の処を含めてやっぱりそう云う一般的に、あの、PR。例えば視線の地震でもネ、台湾の衛星も何かあれが、台湾の衛星がってテレビもあったけど、何で日本の ALOS が出来来ないのかとか、そう云う風につらつら思う処が有るんで、其の辺も何かもう一つ社会に対する啓蒙って云うか、事実を知らせる事をされたら良いんじゃないかなと。

青江部会長:多目的としまして、正にまああのー、今の、所謂ムニャムニャ謂わばまあ実験機ですネ。其の辺は整理は出来ませよね。

JAXA 大沢:はい、先日も宇宙委員会本会議でも、ALOS の利用のまとめをうちの本間の方から報告させて頂いてますが、まあ、52 頁に其の少しご紹介はさせて頂いて居りますが、まあ今も、岩手宮城の地震の事につきましてはですね、まあ一寸防災機関さんが忙しいと云うのは有るんですが、例えば内閣官房アンキ(?)室、内閣府防災さん、防衛さん、警察さんと云う処に我々お出した処ですネ、まああの、所謂オペレーションルームみたいなところに貼って使ってもらるとかですネ、やっぱり全体を俯瞰して、情報を総合的に判断して行く中で使ってもらっていると云うお話は伺って居りませ。

青江部会長:それからネエ、其の一つは私が事前に一回聴いとるもんですから、何となく差し出がましいんですけどもですネ、その住先生言われた、所謂まあ災害、アーって言って需要が高まるけれども、その内ジケイ(?)する。其れは今回の場合は、何処の頁でしたか、兎に角政府部内に於

ける防災を現業としている部局と云うもの全部集めて、其処と随分長い事議論を積み重ねて来た。其れで以て、「あなた方が必要とするものは何ですか」と云う事をキチンと把握をして、其の上で此れがこう云うものであればチャンと使えますネと云う一種のコントラクトの上に此の話は進んで居ると云う事で、先程のアレとは一寸違うかナァと、かなりキチンとした所謂ユーザ機関、正に現業機関との間の積み重ねはですね、相当長時間掛けて為されて来たと云う事はもっと強く言った方が良いんじゃないかと思いますがね。

JAXA 滝田:あの、5 頁に御座いますが、赤枠で囲ってます、「防災のための地球観測衛星等の利用に関する検討会」此れ平成18年2月から開始させて頂いておりまして、まああの、今、四川、ミャンマー、宮城が有ったから思いつきでこのミッション持って来てる訳じゃ無くてですネ、矢張り3年位前から相当我々衛星を防災分野で使って頂きたい、役に立つのではないかと云う会話を、防災機関とずっとやってきました。

青江部会長:他、如何で御座いでしょうか。

森尾:私も以前説明聞いてるんで質問し難いんですけど、今出てる幾つかの意見はですね、恐らくあの、防災って事に特化してやれば此れが一番、まあ、最適な方法だってことは十分検討されて、提案されてるんだと思うんですが、例えば地球が排出する二酸化炭素のかなりの部分がワイルドファイアによるもんだと云う様な話が有って、其れを監視するのをもっと頻度を上げたいって云うのが有りますよネエ。それ

から例えば漁業情報センターですか、の方は魚が何処に行けば沢山獲れるかって云う情報をもっと早く、頻度上げて欲しい<sup>7</sup>。まあ、色んなアレが有りますから、そう云うニーズに対して、全体を纏めてどう云うシステムとしてやるのが良いのかって云うご説明が無いから、防災だけだったらこれが一番良いんでしょうって言われてもハテナって云う様な感じがどうしても残るんじゃないかと思うんで、一度、今まで ALOS で色んな、まあ実験的にデータ取って、活用されて中々これは便利だって云うのありますよね、そう云うものをホントに継続的に今後やるとしたら、システムとしてこれが一番良いのか、オルターネティブもあるのかと云う事と、一度ご説明して頂けるともっと納得し易いんじゃないかと云う風に思いますが。

青江部会長:他、如何で御座いましょうか。

JAXA 本間:あの、次回に追加説明と云う事で、今のご指摘を受けてしたいと思います但し宜しいですか。

青江部会長:はい。

小林:ええと、二つあるんですが。一つは今の話と関連してて、特に分解能ですとか、観測待ち時間と云うもののベースが変動すると、実際の救助活動とかにはどう云う風な影響が出

<sup>7</sup> 頻度を上げる事は殆ど全てのユーザの共通ニーズであろう。但し、殆どの衛星が太陽同期軌道を取っているので、衛星の数を増やせば頻度が増えるという簡単な問題では無い。軌道に関する説明が、6時とか11時とか、地球観測業界用語だけの説明しかないなので、何時迄経っても同じ質問が繰り返される。

て来るのかなんて云うのを、実際にミッションの形で説明して頂くと分かり易いのかなと。もう一つは、13頁の「センチネルアジアへの貢献」の一番最後の文章が一寸気になるんですが、災害監視に関して、「日本の主導的な地位を維持する」と云う。ええと、貢献は是非やるべきかと思えますけど、此れが他国を抑えてまでと云う、まあ、其れは一寸言い過ぎかも知れませんが、「主導的な地位を維持しなければ」と云う、こう云う表現が一寸気に掛かる、どうなんですかネエ。

JAXA 本間:まあ、さっき、あの、「主導的な」ってのは確かに一寸ぎらつきます。<sup>8</sup>実は此れ、日本側が提唱して、既に20か国位センチネルアジアって云うシステムに各国の防災機関、宇宙機関が入ってますので、或る意味継続して強化して行かなければならないと云う思い入れが一寸強い言葉になっています。それから何故此の分解能がって云うのは、先程もユーザさんと色々打ち合わせをして、例えば橋の落ちる現象が起きた時には何メートル位の分解能が居る、或いは崖崩れだと合成開口レーダでどの位の精度が要ると云う、ズーッと長年やって来て居りまして、其の辺を纏めて、今日報告しましたが、その「プロセスを」って云うのがご質問の趣

<sup>8</sup> どの程度質問の意味を理解した解答なのか掴めない。日本は「アジア地域の覇権を目指し、地球観測衛星のデータ提供を以て、其の目標に利用する。」と云う気持などは全く無い。「ぎらつく」と答えるのではなく、「誤解を招きかねない」と答えて欲しい処である。



旨だと思しますので、其れも次回纏めて報告したいと思います。

青江部会長: はい。他に如何で御座いますか。

永原: あの、チュウトウ(?)は光学が内定の様ですが、あの開発方針が、民間と協力する、何か災害と云うと全体エリアの更なるハツアイシテイタカッテニ(?), コストの低減を図る、って云う様な事が書かれているんですが、具体的に其れがどう云う事なのかご説明を。

JAXA 本間: 先程の大沢の説明の繰り返しになって恐縮なんです、実は検討を始めたばかりでして、民間の方々と、実際に色んな外国の観測衛星データを配布している会社が日本にも何社か有ります。まあそう云う方達とお話しているんですが、未だ具体的な処には行って居りません。<sup>9</sup>ですから、今回は開発研究と云う事で、次のステップに進ませて頂きますと、次の開発の緒に立つ迄には其の辺の話をご紹介出来る処まで調整を進められるかナァと思いますが、未だ、相手と其処までの話はして居りませんので、

永原: そう云う事ではなくて、そもそもだからその、日本国内を見て行く衛星と云う性質を持っているのに、其れがどう云った時で、ホントにコストの低減に役立つ様な何かそう云う事が民間にとってそう云う事が可能なのかと云う事ですネ。何か

<sup>9</sup> 軌道の説明が不十分なので確かな事は解らないが、商業衛星の画像を入手出来ても、観測時間の穴を埋める事は困難なのではないか。殆どの衛星が太陽同期軌道を取っているのであれば、どう頑張っても穴を埋める事は出来ない。

要するにまあ、日本の国内にそう云う様な情報は提供出来るけれども、其処でホントに此の全体の計画のコスト低減を図るような、そう云う様な事が有り得るんだろうかと云う事なんですけれども。

JAXA 本間: あの、未だ思い付きの段階なんです、例えばデータを受信するアンテナを共用できないかとか、或いは画像解析のソフトウェアと云うのは或る意味非常に衛星毎で共通部分が有ります。ですから其の辺を共用出来ないかとか、まあ、今入口としてはそう云う様な議論をして居ります。其れがコストの低減にも、未だワズラッカク(?)と思いますが、其れを入口として今後色んなケースを検討出来たらナァと思っ居ります。

青江部会長: はい。ええと、未だ未だご質問あると思うんですが、時間が本日の予定になったので、此れは、ご質問等はどの様にすれば宜しいんですか?(以下日程の紹介、省略)